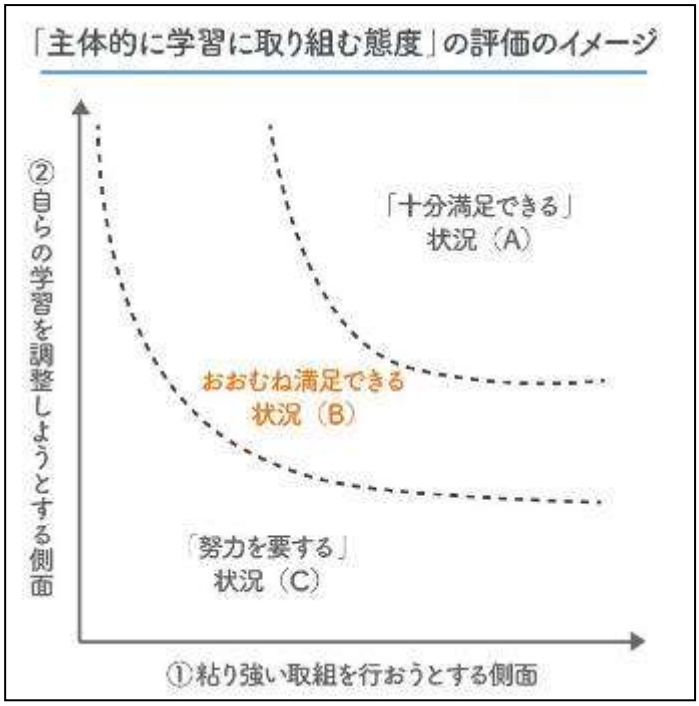
鈴っ子

山形市立鈴川小学校　学校だより
令和５年１１月２１日（火）
第８号　校長　鈴木　伸治

「自己調整力」と子どもの学び

「自己調整力」とは「自己の行動と感情をコントロールできる能力、心理学用語ではメタ認知（自分を客観的にとらえる）できる能力」と言えます。例えば、なにかしらの問題場面に出会った時、「できないのでやりたくないから避ける」と「できるようになりたいから粘り強く挑戦する」の相反する感情と行動をコントロールする力と言えます。

右の図は、国立教育政策研究所の「学習評価の在り方ハンドブック」から掲載したものです。



主体的に学習に取り組む態度の評価に当たっては、横軸の粘り強さだけでなく、縦軸で表された『自らの学習を調整しようとする側面』が必要です。（≒自己調整力）

言い換えれば、横軸はどれだけ勉強したかという量的な部分で、縦軸は学習の質にかかわる部分と言えます。

行動・感情面と言った側面だけでなく学習といった側面からも、自分の理解状態を診断し、それに応じて自分で工夫して学習できることが今強く求められています。

例えばサッカーで強くなりたいと思ったら、自分のプレーの方法を研究したり、チームが負けたときにはその敗因を探ったりして、自己を客観的に見つめながら改善していく、というとわかりやすいでしょうか。

「わかること」「わからないこと」を区分けすることで、自己調整力は伸びる

よくある授業場面。授業最後のまとめで「みなさん、わかりましたか？」と先生が尋ねると、「はい。」とか「わかりました。」と子どもたちが答えます。さて、本当に子どもたちはわかっているのでしょうか？

「わかるとは何か」を知ることで、子どもたちは「わからないとは何か」をも理解することができるのだと思います。きちんとわかること（先月の学校だよりで言えば、アウトプットすることで理解が確かになるということ）はさらに深い理解にもつながり、自分にとって、長く残る本物の知識になるのだと思います。

丸暗記しただけの歴史用語や年号はすぐに忘れてしまいますよね。でも因果関係や理由、

前後の流れをつかんで深く理解していたことなら、何年経っても忘れることはありません。なんと言いましょうか、「自分の体の中を通って得た知識」とでも言えるでしょうか。

日常の中で、子ども自らが学習を調整する力を伸ばすことができる例として、漢字テストをもとに考えてみましょう。

テストが 60 点だった。まったく書けなかったのか、へんやつくりを間違えたのか、それともはねを忘れたのか。ただ間違った字を反復練習するだけでなく、どう間違えたのかを考える習慣をつけることが重要です。それによって成績は必ず上がってきます。さらに学年が上がると、自分がどんなミスをしやすいかという、自己の傾向にも気づいてきます。

▲自他の考えを伝え合う６年生

ミスを振り返ることの意味が理解できれば、復習すべきところの判断も自発的にできるようになります。テストは、点が取れた、取れなかったと一喜一憂するためのものではなく、次の対策を練るためのもの、自身を向上させるものでありたい。

間違えたところを子ども自身が振り返り、悔しいと感じたり、次は間違えないぞと思ったりすること、まさにそれこそが学習なのでしょう。自己調整力を伸ばし、より質の高い学びに向かうような授業を求めて、日々努力を続けていきたいと思います。

鈴川まつり（10/29）で、吹奏楽・山家田植え踊りを披露！

４年ぶりのお祭りで、地区の方々へ、堂々と発表してきました。吹奏楽保護者会、山家田植え踊り保存会の皆様、ご協力ありがとうございました。

12月の行事予定

５日（火）	感謝の会（朝会時）
	薬物乱用防止教室（６年）
６日（水）	５年１組校内授業研究会
８日（金）	児童会委員会活動
１１日（月）	職員会議
１２日（火）	音楽朝会
１４日（木）	なかよし班活動（ロング昼休み）
１５日（金）	児童会代表委員会
１８日（月）	反省職員会議
２０日（水）	４年１組校内授業研究会
２１日（木）	６年生弁当日（調整）
２２日（金）	いのちの日
	第２学期終業式（朝会時）

子どもたちの日々の学習や暮らしの様子などを、学校ホームページでお知らせしています！どうぞご覧ください

https://www.suzukawa-e.ymgt.ed.jp/